

# 第8期宮崎市民長寿支援プラン

## 重点課題に係る実績について

### ○基本理念と政策目標

#### 基本理念

すべての高齢者が住み慣れた地域の中で、  
安心して暮らせるまちの構築

#### 政策目標

地域包括ケアシステムの推進による  
「切れ目のない在宅支援の充実」と  
「地域に根ざす自立支援の実現」を目指して

### ○4つの重点課題

1. 自立した生活を継続するための「自立支援」「重度化防止」の推進
2. 認知症の人が認知症とともにより良く生きていくことができる地域づくり
3. 高齢者の生活を支えるための地域自治区を基本としたサービス体制の整備
4. 地域でいきいきと活動的に暮らすための生きがいづくり活動の推進

## 【重点課題1】

### 自立した生活を継続するための「自立支援」「重度化防止」の推進

#### <取組内容>

##### ○自立支援型地域ケア会議を核とした取組の推進

高齢者の生活の質(QOL)の向上につながる取組の充実を目指し、医療や介護の専門職助言者が参画し、自立支援・重度化防止に向けた効果的なケアマネジメントの検討を図った。

##### ○生活の質を向上する自立支援・生活支援等の充実

高齢者の心身機能が衰えても軽度のうちにできる限り改善・悪化の防止が図られるよう、運動・栄養・口腔を重視したケアマネジメントやサービス提供体制として、介護予防・生活支援サービス事業と一般介護予防事業を実施した。

##### ○ケアマネジメントにおける介護予防の取組の推進

高齢者が介護予防活動や集いの場、ボランティア等に参加したり就労したりすることは、心身の状態を維持し、介護予防につながるものとし、健幸運動教室やシニア応援ボランティアなどの地域介護予防活動支援事業、フレイル予防短期スクールや介護予防手帳などの介護予防普及啓発事業に取り組んだ。

#### <成果指標>

指標	目標値			実績値		
	2021	2022	2023	2021	2022	2023
①要支援認定更新時の維持・軽度化割合(※1)	64.5%	66.0%	67.5%	66.6%	44.2%	46.1%
②短期集中サービス(サービスC)の維持・改善率(※2)	88.0%	90.0%	92.0%	79.1%	81.1%	70.3%

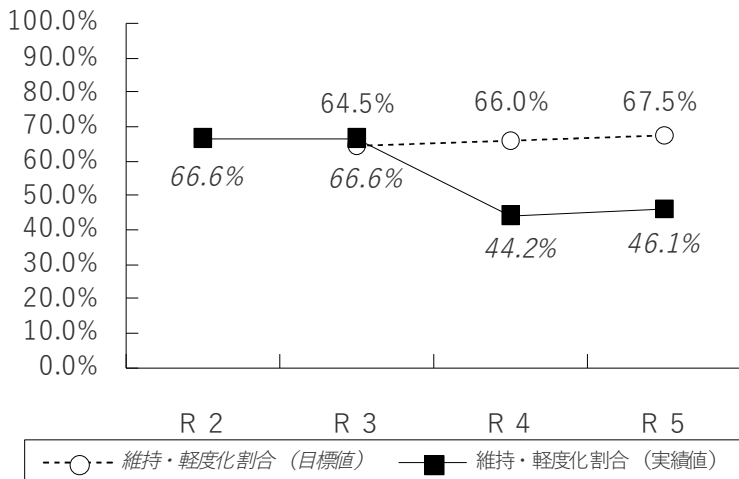
※1 当該年度に認定有効期間満了を迎える要支援1・2の者のうち、介護認定審査会の二次判定結果が維持または軽度化したものの割合。

※2 当該年度にサービスCの利用者を対象に、本市の地域包括支援センター等が独自に実施する介護予防アセスメント(全55項目)の事前・事後の合計点数を比較した際の維持又は改善した者の割合。

#### (成果の総括)

2つの成果指標のいずれの結果からも、2022年度および2023年度では、目標値を下回るものとなった。これは、コロナ禍におけるサービス利用控えや外出控えが発生していたことが大きな要因と考えている。本市の要介護認定率は、要支援1・2や要介護1の軽度者の割合が高い状況にあるが、このうち特に要介護1の数が増えている状況(資料3「要介護認定の状況」参照)にあるため、引き続き介護予防や自立支援等の取組を充実させて、介護を必要とする高齢者の増加の抑制に努めていきたい。

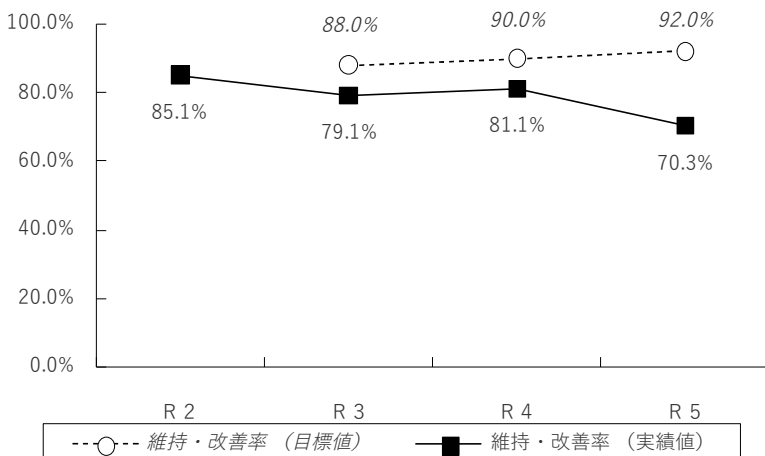
### ①要支援認定更新時の維持・軽度化割合



令和5年度実績は、前年度実績を上回ったものの、目標値には達していなかった。コロナ禍に伴い外出等が制限されていた令和2年度、3年度の状況が、その後の認定更新の結果に影響したものとする。

コロナ禍が明けたことを踏まえ、昨年度は様々な事業や取組ができていた状況にあり、令和6年度以後の認定更新時の維持・軽度化の割合については改善していくことを期待したい。

### ②短期集中サービス(サービスC)の維持・改善率



令和5年度実績は、第8期において最も目標値を下回る結果となった。

また、各プログラムごとの維持・改善率をみると、特に訪問型サービスで維持・改善率が伸びていなかったが、訪問型短期集中サービス(サービスC)に関しては、単なる軽度者以外に、疾患や麻痺を持っている方の利用者が含まれていたことも影響したと考える。

## 【重点課題2】

### 認知症の人が認知症とともにより良く生きていくことができる地域づくり

#### <取組内容>

##### ○認知症に関する相談窓口の充実や認知症予防の促進

相談支援や体制強化のため、認知症地域支援推進員を配置し、認知症カフェの開催や認知症に関わる専門職との連携に取り組んできた。また、早期発見・早期対応としていく初期集中支援支援チームを配置するなど、様々な認知症施策の推進に取り組んできた。

##### ○地域住民の認知症理解と支援の促進

認知症について正しく理解し、啓発していくサポーターの養成に努め、また、介護家族等の身体的・精神的負担の軽減を目的に交流会を開催するなど、認知症の高齢者を安心して介護できる環境づくりに取り組んできた。

##### ○権利擁護支援体制や認知症高齢者等支援事業の充実

成年後見制度の周知や利用促進に努め、また、配慮が必要な認知症高齢者への防火体制の整備支援など、住み慣れた地域で安心して暮らせるための支援の充実を図った。

#### <成果指標>

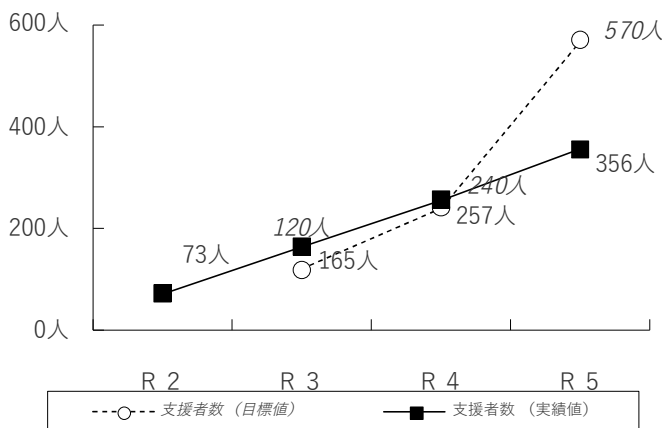
指標	目標値			実績値		
	2021	2022	2023	2021	2022	2023
①認知症初期集中支援チームへの連携支援者数（延べ人数）	120人	240人	570人	165人	257人	356人
②認知症初期集中支援チーム支援終了者数（延べ人数）	84人	168人	399人	116人	179人	243人
③ステップアップ講座受講者数	60人	60人	60人	16人	25人	22人
④成年後見市長申立件数	35件	40件	45件	31件	34件	41件
⑤認知症高齢者位置検索サービス事業利用者数	41人	41人	41人	21人	10人	23人
⑥認知症高齢者防火支援事業助成件数	21件	21件	21件	8件	7件	8件

#### （成果の総括）

認知症支援関連の成果指標が目標値を下回っていることについては、困難事案の対応など、ケースに応じて1件あたりに費やす時間がかかったことが影響している。また、講座受講は、コロナ禍の影響や認知症の方への支援に対する認識不足が生じた結果となっている。

認知症高齢者支援事業や成年後見制度利用支援事業など、引き続き認知症高齢者等の支援に係る体制の構築や助成に努めていきたい。

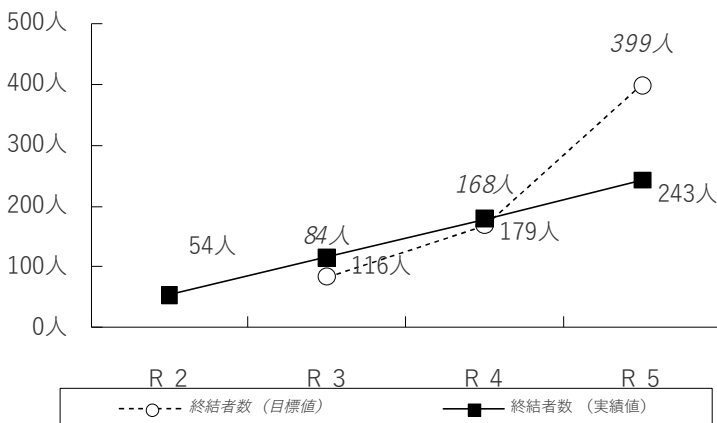
① 認知症初期集中支援チームへの連携支援者数(延べ人数)



令和5年度実績は、目標値を下回っているが、困難事案への対応が多く、対象者1人あたりに要する時間が膨大となり、対応が追い付かない状況にあることが大きな要因と考える。

チーム員の増数等により支援体制を強化することで、少しでも多くの支援者数を増やしていきたい。

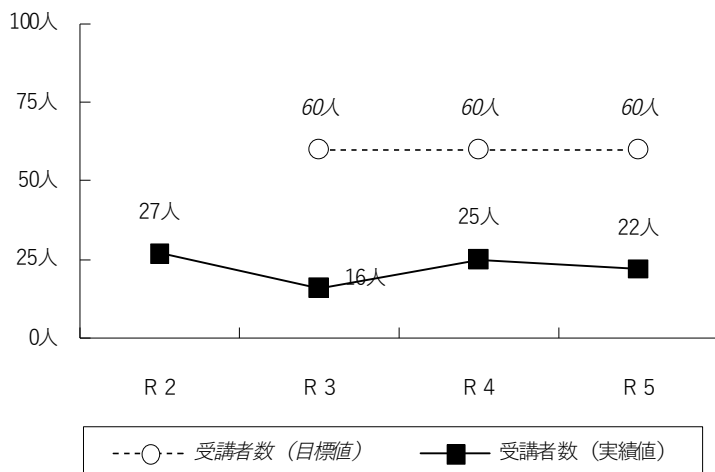
② 認知症初期集中支援チーム支援終結者数(延べ人数)



令和5年度実績は、目標値を下回っているが、困難事案への対応が多く、対象者1人あたりに要する時間が膨大となり、対応が追い付かない状況にあることが大きな要因と考える。

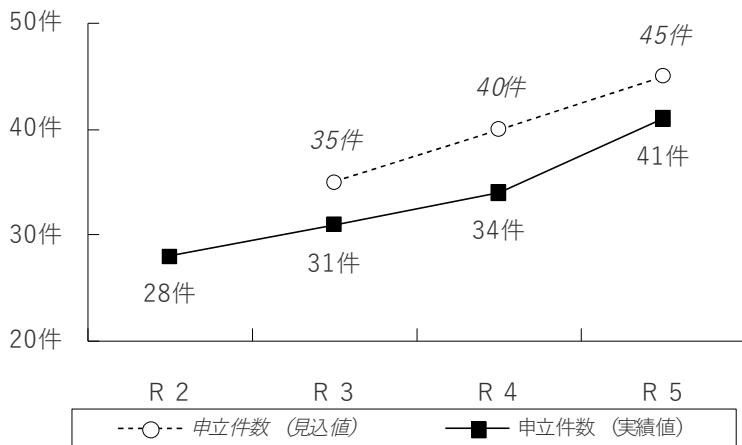
チーム員の増数等により支援体制を強化することで、少しでも多くの支援者数を増やしていきたい。

③ステップアップ講座受講者数



令和5年度実績は、目標値を下回っており、3箇年を通じて目標値を下回る結果となっている。コロナ禍による影響もあるが、多くの方が認知症サポーターより実践的な支援を目指すステップアップ講座の受講へ戸惑いを感じていると思われる。講座の中で他自治体での活動事例を紹介するなど、支援への戸惑いを解消し、実践的な活動に繋がるような内容の検討・再考を行っていく。

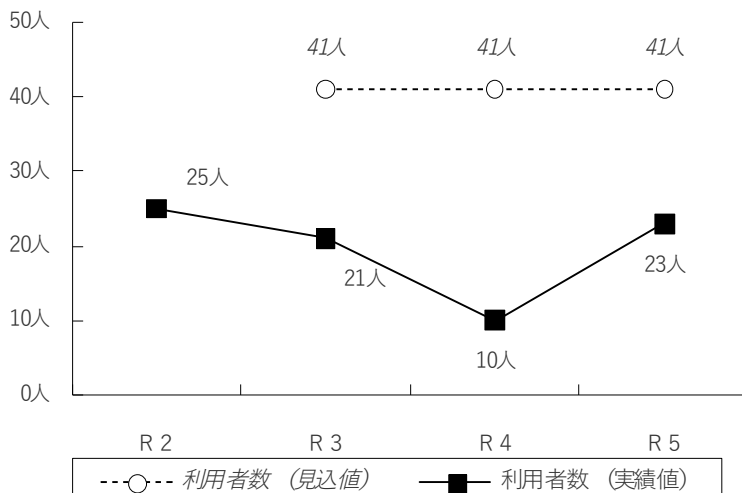
#### ④成年後見制度の市長申立件数



令和5年度実績を含み、3箇年を通じて目標値をわずかに下回る結果となった。

目標値には及ばなかったものの、市長申立件数は今後一層の増加が見込まれることから、適切な成年後見制度利用を促進するため、引き続き制度の周知や広報に努めていきたい。

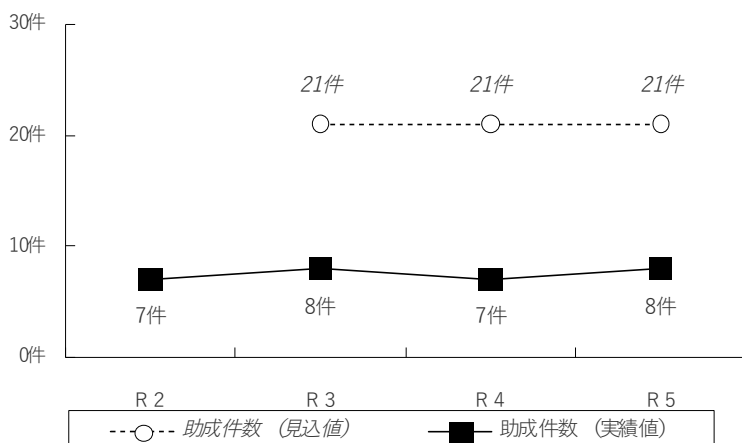
#### ⑤認知症高齢者位置検索サービス事業新規利用者数



令和5年度実績を含み、3箇年を通じて目標値を下回る結果となった。

必要とする対象者が少なかったと捉えるとともに、今後一層の増加が見込まれる認知症高齢者の家族を支援するためにも、適宜助成対象のサービス内容の見直しを図り、関係機関等への周知に努めていきたい。

#### ⑥認知症高齢者防火支援事業助成件数



令和5年度実績を含み、3箇年を通じて目標値を下回る結果となった。

必要とする対象者が少なかったと捉えるとともに、今後一層の増加が見込まれる認知症高齢者の家族を支援するためにも、適宜助成対象の見直しを図り、関係機関等への周知に努めていきたい。

### 【重点課題3】

## 高齢者の生活を支えるための地域自治体を基本としたサービス体制の整備

### <取組内容>

#### ○介護需要に応じた介護サービス事業所の整備の推進

住み慣れた地域で安心して暮らせることを念頭に、地域密着型サービス整備を推進し、また、いわゆる住宅型有料老人ホーム等から特定施設入居者生活介護の移行を求めた。

#### ○介護人材の確保・定着に向けた取組の推進

介護職員の就労・定着に向けた資格取得の支援に取り組み、また、元気な高齢者などが介護分野で活躍できるよう介護助手やボランティア活動の普及啓発に取り組んだ。

#### ○地域ぐるみの支え合いの取組の充実

生活支援コーディネーターを配置し、関係機関や関係団体と協力しながら、地域のニーズや課題を共有するための協議体の設置などの生活支援体制整備事業に取り組んだ。また、通いの場など、ニーズに応じた地域資源の発掘や開拓に努めた。

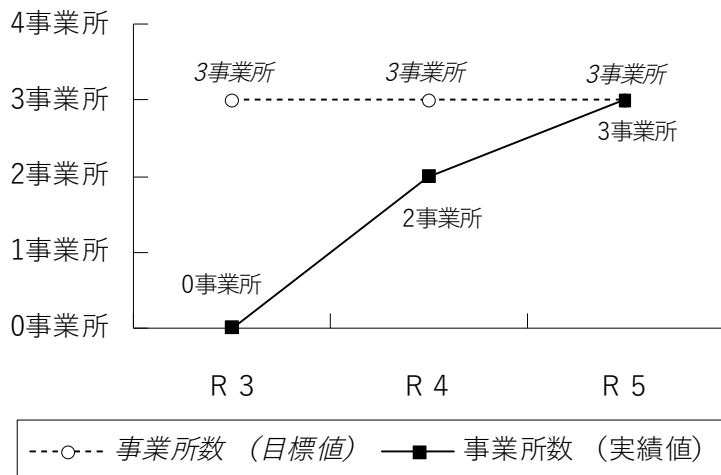
### <成果指標>

指標	目標値			実績値		
	2021	2022	2023	2021	2022	2023
①定期巡回・随時対応型訪問介護看護の整備数	3年間で3事業所			0事業所	2事業所	1事業所 (累計3)
②(看護)小規模多機能型居宅介護の整備数	3年間で5事業所			1事業所	0事業所	2事業所 (累計3)
③認知症対応型共同生活介護の整備数	3年間で6ユニット(54床)			0ユニット	0ユニット	0ユニット
④特定施設入居者生活介護の整備数	3年間で100床 ※有料老人ホーム等からの移行			0床	0床	0床
⑤訪問型サービスA利用件数	887件	913件	939件	609件	604件	507件
⑥地域ぐるみでの生活支援の場設置数	17箇所	22箇所	23箇所	7箇所	7箇所	2箇所

### (成果の総括)

認知症対応型共同生活介護や特定施設入居者生活介護の整備については未整備の結果となったが、令和5年度の公募により、認知症対応型共同生活介護では、3ユニット(1事業者)の開設が令和6年度見込まれ、特定施設入居者生活介護では、72床(2事業者)が令和6年度に開設された。介護人材の確保が困難であることが一因と捉えているが、特定施設入居者生活介護の整備については、既存の住宅型有料老人ホームからの転換となることから、引き続き事業者への理解を求めていく必要がある。また、介護人材の確保に向けて、介護職員はもとより、ケアマネジャーの人材確保も喫緊の課題と捉え、外国人材の活用等の研究を進めていきたい。

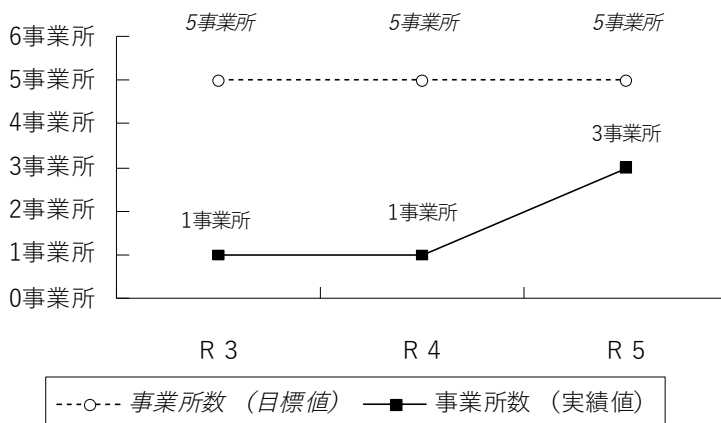
① 定期巡回・随時対応型訪問介護看護の整備数



令和5年度は1事業所を指定した。また、3箇年を通じて目標値を達成した。

高齢者の増加とともに、介護が必要となる高齢者の増加も見込まれるため、引き続き、在宅における生活の継続を支援するために、市内全域でサービスが受けられるよう整備に努めていきたい。

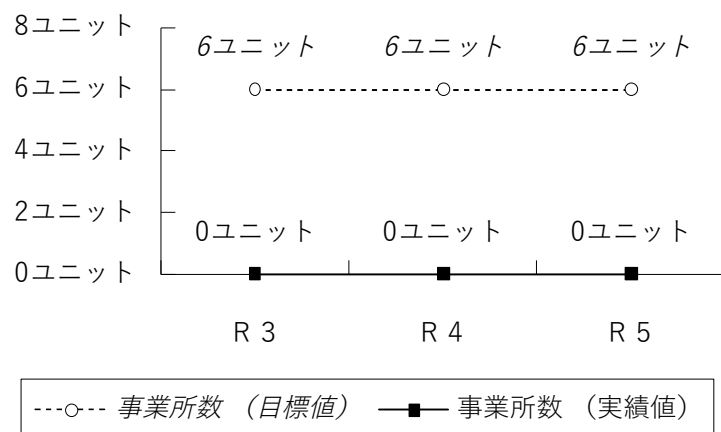
② (看護) 小規模多機能型居宅介護の整備数



令和5年度は2事業所を指定した。一方で、随時受付と併せて、公募も試みたが、3箇年を通じて目標値を達成することができなかった。

高齢者の増加とともに、介護が必要となる高齢者の増加も見込まれるため、引き続き、在宅における生活の継続を支援するために、市内全域でサービスが受けられるよう整備に努めていきたい。

③ 認知症対応型共同生活介護の整備数

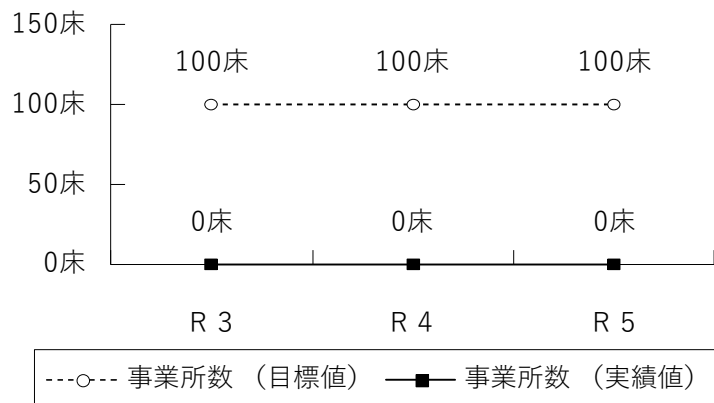


令和5年度は実績がなく、また、3箇年を通じて実績がなく、目標値を達成することができなかった。

なお、令和5年度に公募を実施し、3ユニット（1事業者）の開設が令和6年度見込まれている。

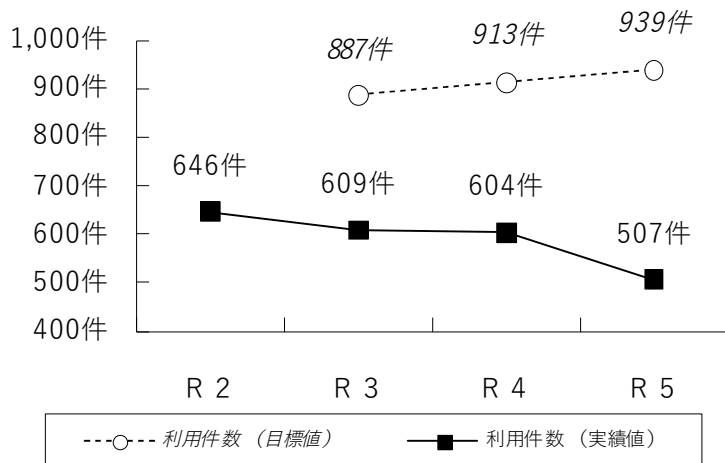
グループホームの需要は高まっていくものとして、引き続き、市内全域を対象にして整備に努めていきたい。

#### ④特定施設入居者生活介護の整備数



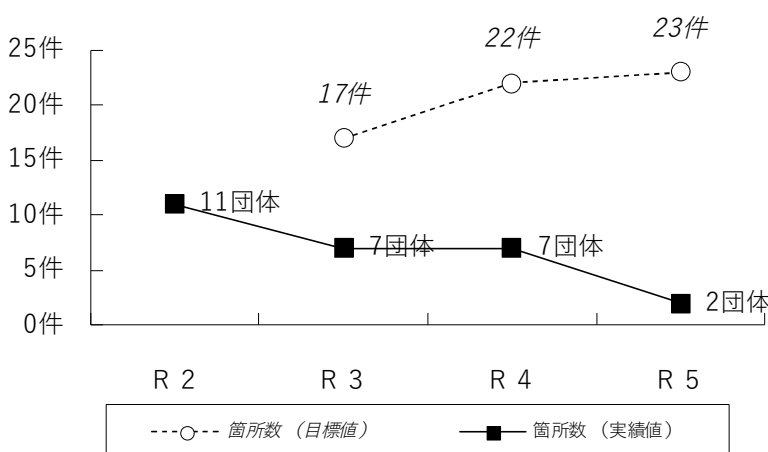
令和5年度は実績がなく、また、3箇年を通じて実績がなく、目標値を達成することができなかった。  
 なお、令和5年度に公募を実施し、72床(2事業者)が令和6年度に開設された。  
 特に、今後は、既存の住宅型有料老人ホームを対象にした、混合型特定施設入居者生活介護の指定に努めていきたい。

#### ⑤訪問型サービスA利用件数



令和5年度実績は、目標値を下回っており、また、3箇年を通じて年々目標値から乖離していく結果となったが、訪問を控えてほしいとするコロナ禍による影響が大きいと考える。  
 なお、介護予防・生活支援サービス事業全体において同傾向にあったが、引き続き、介護予防・生活支援サービス事業に取り組んでいきたい。

#### ⑥地域ぐるみでの生活支援の場設置数



令和5年度実績は、2団体の申請に留まり、3箇年を通じて目標値を達成することができなかった。  
 一方で店舗を活用した「通いの場」などは、近年企業側の理解により、各地で着実に開催が増えているところである。  
 住民参画型介護予防・生活支援推進事業としては廃止するが、通いの場における運営を、住民主体で活動できるように支援していきたい。

## 【重点課題4】

### 地域でいきいきと活動的に暮らすための生きがいづくり活動の推進

#### <取組内容>

#### ○高齢者の健康・生きがいづくり活動の支援

健康・生きがいづくりの推進のため、地域を基盤とする高齢者の自主的な活動組織である老人クラブの支援などを行った。また、地域ごとにより多くの場所で生きがいづくりや介護予防の取組みが始められるよう、健幸運動教室などにおける地域介護予防支援事業に取り組んだ。

#### ○高齢者の外出促進および通いの場の充実

閉じこもりの防止や社会参加のきっかけとなるよう、生きがい支援施設などによる高齢者が気軽に参加できる交流の場を提供するとともに、高齢者がバスを手軽に利用できるよう敬老バスカの交付や、地域コミュニティ交通を進める他部署との連携により、移動手段に係る支援を行った。

#### <成果指標>

指標	目標値			実績値		
	2021	2022	2023	2021	2022	2023
①みんなで体操みんなで健幸事業（健康運動教室参加者実人数）	4,060人	4,860人	5,660人	3,008人	3,091人	3,819人
②シニア応援ボランティア登録者数（※1）	885人	965人	1,045人	605人	592人	488人
③敬老バスカ実利用者	26,500人	28,000人	29,500人	23,950人	25,452人	27,239人

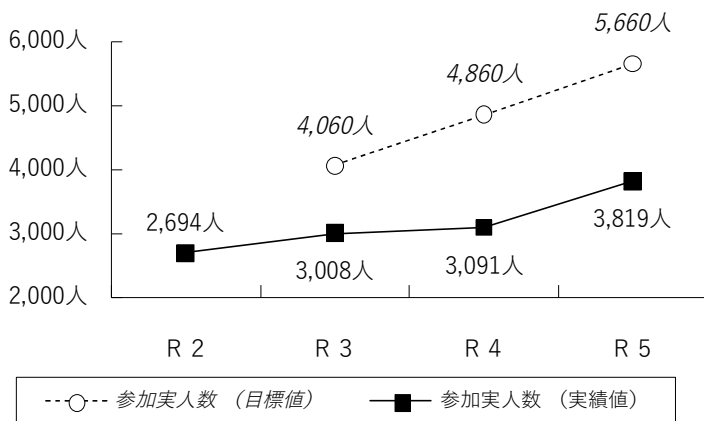
※1 コロナ禍における活動自粛を踏まえ、毎年登録者名簿の更新確認作業（継続意向確認）を行った。このため、年々登録者数が減少しているが、登録者延べ人数に関しては、2023年時点で1,042人であるところ。

#### （成果の総括）

元気な高齢者等における生きがいづくり活動に関しては、最もコロナ禍の影響を受けることとなったものとする。その中で、第8期初年度と最終年度の成果指標を比較すると、確実に実績が伸びているところであり、徐々にコロナ禍前の活動状況に戻りつつあると実感している。ただし、シニア応援ボランティアに関しては、コロナ禍以後も、高齢者施設等の事業者側の意向を踏まえて受入体制が整っていない状況にある。

引き続き、老人クラブをはじめとする各種団体による、介護予防や地域貢献活動等、生きがいに繋がる取組が充実するよう支援していきたい。

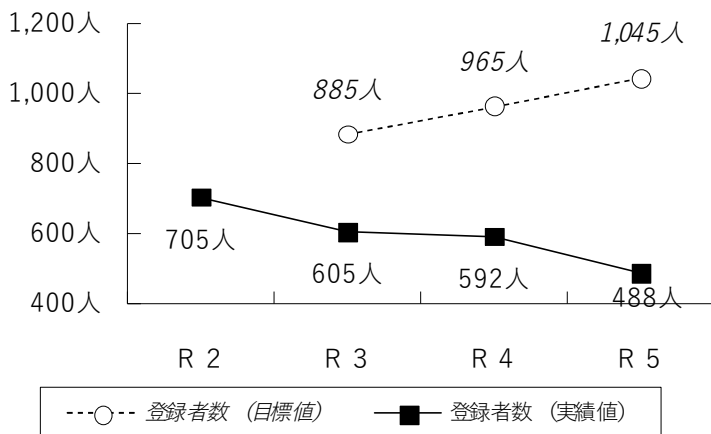
① みんなで体操みんなで健幸事業（健幸運動教室参加者実人数）



令和5年度実績は、3,819人で、目標値を下回った。3箇年を通じて目標値を達成することができなかったが、コロナ禍による影響が大きいと考える。

一方で、前年度比は123.6%であり、徐々にコロナ禍前に戻りつつある実感もある。今後更なる新規参加者増を目指した事業展開を図っていきたい。

② シニア応援ボランティア登録者数

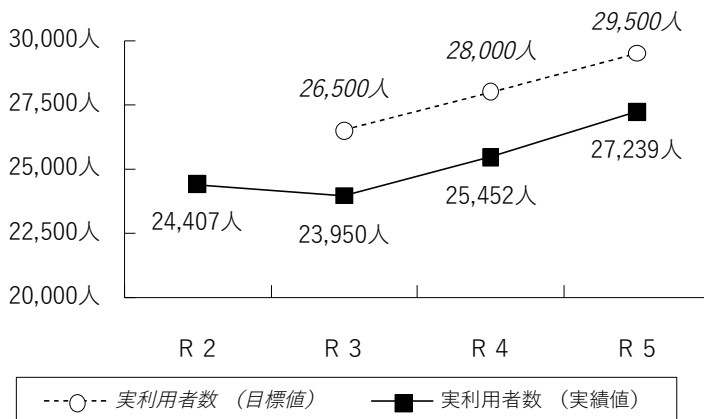


令和5年度実績は、488人で、目標値を下回り、3箇年を通じて目標値を達成することができなかった。

コロナ禍による影響から、活動自粛や受入制限があったことによるもので、この間、登録者の意向調査を実施し、登録者自体も見直した。

引き続き、登録者及び実際の活動者の更なる拡大に向けた普及に努めたい。

③ 敬老バスカ実利用者



令和5年度実績は、27,239人で、3箇年を通じて概ね目標値を達成できたものとする。

コロナ禍による影響から、高齢者の外出控えがあったものと考えられるが、傾向として徐々に増加しているところ。

引き続き、高齢者の外出促進に繋がるよう、敬老バスカの普及に努めたい。